

点滴灌水によるシイタケ発生促進（第1報）

1 研究のねらい

春子発生期にほだ木を乾燥から守り、子実体の発生を促進させるため、少ない水資源を有効に活用する点滴灌水法により、発生を促進させる方法を開発する。

2 研究方法と結果

- (1) 点滴灌水の方法：18リットルポリタンクを脚立にのせて、針穴を開けたホースを取り付け、ほだ木の木口面に滴下した水が当たるようにした。
ほだ木 50 本に灌水を実施し、1 本当たり 200～400 ml、およそ6時間の灌水が可能であった。
- (2) 試験方法：平成5年植菌の低温菌について、無処理区、点滴灌水区、散水区の3区を設け、降水量の少ない期間の散水及び点滴灌水を同日に実施し、ほだ木1 m³当たりの収量(乾燥重量)を比較した。
- (3) 試験結果：4月18日から5月6日にかけて採取したものの収量は、散水区が最も高く無処理区と比較して約4割増、点滴灌水区では2割増という結果になった。

また、降雨量及び点滴・散水に要した水量を降水量に換算したものは点滴灌水区が散水区と比較して43%程度の水量であった。

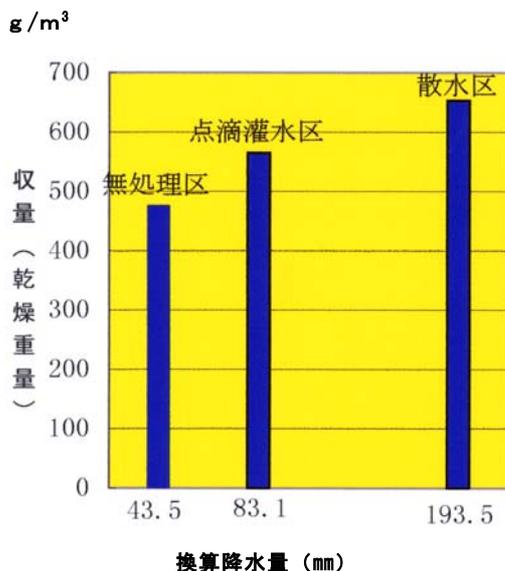
3 成果の今後の進め方

点滴灌水は、散水ほどの効果はないものの、乾燥からほだ木を守り、発生を促進させる可能性があることが明かとなった。

今後は、年次による違いを検討するとともに、原基形成期での効果も検討する予定である。



点滴灌水を実施しているほだ場



換算降水量と収量（乾燥重量）



灌水状況

(担当 特用林産部 主任専門研究員 小原 孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL 019-697-1536
 岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>